

令和7年度

四国大学附属西富田こども園
施設関係者評価報告書

令和7年度 施設関係者評価委員会

場所：四国大学附属西富田こども園 2階 リズム室

日時：令和8年2月26日（木） 13：30～14：30

施設関係者評価委員会が実施した施設関係者評価について

はじめに

本報告書は、保護者、地域住民や青少年健全育成関係団体、また、接続する小学校の教職員、大学の研修者等で構成された四国大学附属西富田こども園施設関係者評価委員会が、教育活動の参観及び教職員との意見交換や園職員による自己評価結果について概評することを基本に施設関係者評価を実施し、その結果をとりまとめたものである。

1 施設関係者評価の目的

施設関係者評価は、保護者の会役員や地域住民等の施設関係者等が、園職員による自己評価の結果を評価することを通じて、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、施設・家庭・地域が園の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、園運営の改善への協力を促進することを目的として行うものである。

2 施設関係者評価に係るスケジュール

令和7年5月27日	施設関係者評価委員会設置	施設関係者評価委員依頼
令和7年7月	職員自己評価（1回目）実施	
令和7年6月～令和8年1月	公開保育（計7回）の参観	
令和7年11月	職員自己評価（2回目）実施	
令和8年2月26日	施設関係者評価委員会	

（自己評価の結果及び今後取り組むべき課題等に関する説明を受けての施設関係者評価の実施と評価報告書の作成等）

3 施設関係者評価委員会委員

越智 有生	四国大学附属西富田こども園保護者会	会長
国貞 博子	西富田地区民生主任児童委員	
野田 収蔵	西富田社会福祉協議会	会長
林 哲史	新町小学校	校長
笠井 由美	四国大学生生活科学部児童学科	講師

順不同（敬称略）

4 施設関係者評価結果

【評価の基準】

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

〈本年度の施設評価の具体的な目標に対する評価〉

本年度の具体的な目標	取り組み内容	達成状況	評価
教育保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流の場を計画的に確保し、特に0・1歳児とふれあう機会は普段の生活や遊びの中で工夫するよう職員間で連携を図る。 ・健康と安全を目的としてたくましいからだづくりのために、運動能力を高める活動を取り入れる。 	B	A B
安全管理の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害時に臨機応変の判断、対応ができるよう、役割分担の確認や様々な想定での訓練を実施する。 ・幼年消防クラブ(3.4.5歳児)の活動に参加し、地域の方や東消防署と連携を図り、防火・防災意識を高めていく。 	B	A B
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が職務内容や業務分担、役割を理解し、組織力や専門性の向上を図るため年度当初に園内研修を実施する。 ・公開保育を活用し、日々の保育の在り方を振り返り職員間で話し合いの場を持つようにする。 	A	A
保護者・地域との密な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりの発行や配布、地域の方との交流の場を積極的に設け、相互理解を深める。 ・地域の外国人の方(NPO法人眉山大学)とふれあう機会を設け、遊びや生活を通して英語や外国文化に親しむ。 ・保護者との信頼関係を深め、保護者の子育て力を高めるために、クラス懇談会・個人懇談・保育参加等の機会を設ける。 ・小学校との連携を深めるために意見交換や情報交換を行い話し合いの場を持つようにする。(架け橋期カリキュラム) 	A	A
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の子育てに対する不安や気がかり事が、園を通して専門機関と連携できる相談窓口を設けて体制づくりをするとともに、園だよりやホームページ等で繰り返し情報提供する。 	B	B

【意見】

- ・こども園の環境を生かした教育・保育が実践されていることがよくわかった。特に小学校や地域との連携が素晴らしいと思う。SDGs のことも含め、小学生と共に清掃活動に取り組んでおり、環境だけでなく、縦のつながりなども育むことができる良い機会となっている。
- ・課題としている点も次年度に取り組めるよう期待する。多くの行事の中、先生方が子どものために色々と考えておられていることがよくわかった。

- ・次年度の取り組むべき課題というところで「子どもの主体性を尊重し、子どもが自ら考え行動できる環境を整えていく」とありますが、素晴らしい取り組みだと思う。
- ・熱心な保護者が多くなり、こども園に求められることも増えていく中で、創意工夫しながら行事に取り組んでいる先生方には頭が下がる。
- ・公開保育で色々なことを楽しそうに挑戦している子ども達の笑顔が素敵でした。
- ・多種多様な教室を開催し、専門の先生に指導してもらうことで、身につけさせたい力が培うことができているのではないかと。単発に終わるのではなく継続していくことが大切だと思う。
- ・専門性を高めるために、研修の充実は欠かせない。子どもがいるのでなかなか時間を作るのも難しいと思うが、定期的な研修の時間設定も可能であれば考えていく必要があるのではないかと。
- ・幼年消防クラブ結成は良いと思う。火の大切さと恐さを教えることは大事である。
- ・粘土細工においては、一人一人が別々な作品が出来上がり、楽しい時間が過ごせたと思う。ぜひ続けてほしい。
- ・子ども主体性で大切にしている教育方針に、非常に信頼を寄せている。
今後も引続き、職員の方々に無理がないようよろしくお願いいたします。

5 次年度に向けての課題

今年度の施設関係者評価により、今後もより一層深めていった方がよいとされる教育・保育活動等については次年度も継続する。それに加え自己評価結果に基づく園の現状を見据えた課題については、全職員による組織力で改善に向け真摯に取り組んでいく。

① 教育・保育の質の向上

- ・子どもの主体性を尊重し、子どもが自ら考え行動できる環境構成を整えていく。
- ・0歳児から就学前までの発達の連続性を踏まえ、結果に目を向けすぎずプロセスを大事にしながら丁寧な保育実践に努める。

② 安全管理の確立

- ・災害の発生時に保護者等への連絡及び子どもの引渡しを円滑に行うため、日頃から保護者との密接な連携に努め、連絡体制や引渡し方法について確認し訓練を実施する。
- ・東消防署と連携を密にしながら、様々な状況を想定した避難訓練を行うとともに、防災士の資格を取得した職員による研修を実施し職員間の防災意識を高めていく。

③ 研修（資質向上の取組）

- ・職員が職務内容や業務分担、役割を理解し組織力や専門性の向上を図るため、年度当初に園内研修を実施するとともに、定例研修の年間計画を通して専門性を高め、保育の質の向上を図る。
- ・公開保育を活用し、日々の保育の在り方を振り返り職員間で話し合いの場をもつようにする。

④ 保護者・地域との密な連携

- ・園だよりの発行や配布、地域の方との交流の場を積極的に設け、相互理解を深める。
- ・地域の外国人の方（NPO 法人眉山大学）とふれあう機会を設け、遊びや生活を通して英語や外国文化に親しむ。
- ・保護者との信頼関係を深め、保護者の子育て力を高めるために、クラス懇談会・個人懇談・

保育参加等の機会を設ける。

・小学校の連携を深めるため、意見交換や情報交換を行い話し合いの場を持つようにする。(架け橋期カリキュラム作成)

⑤ 特別支援教育の推進

・保護者の子育てに対する不安や気がかり事が、園を通して専門機関と連携できる相談窓口を設けて体制づくりをするとともに、園だよりやホームページ等で情報提供し丁寧な支援に努める。

6 本評価報告書の公表

本報告書は、設置者（理事長）に提出する。また、理事会での報告、ホームページへの掲載を通じて、広く社会に公表する。



R8. 2. 26 施設関係者評価委員会の様子